

平成 30 年度 第 1 回 大阪市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会
(要旨)

日時：平成 30 年 8 月 30 日（木）10 時 00 分～

場所：大阪市役所 P1 会議室

1 開 会

- ・福祉局長あいさつ
- ・委員紹介

2 議 事

大阪市地域福祉基本計画の評価指標等について

- (1) 大阪市地域福祉基本計画の評価等の流れについて
- (2) 大阪市地域福祉基本計画の評価等にかかる様式について
- (3) 大阪市地域福祉基本計画の評価指標について
- (4) 地域福祉に関する調査の概要について

【議事(1)～(3)】

- ・事務局から資料に沿って説明

(主な意見)

- ・市の基本計画と区の計画との関係において、市の基本計画の中身をどう取り込んでいた
だいているのかといった評価もありうる。
- ・「区の計画の評価はどのようになされているのか」「作りっぱなしで終わりなのか」「計
画策定への地域の方の参加はどうか」など、どのようなやり方をしているかという
こと調査してみてもいいのではないかと。
- ・この評価は「計画の中に記載されている取組みの評価（プログラム評価）なのか」「計
画自体の評価なのか」何を評価するのかを明確化すべきではないかと。
- ・こども食堂はどんどん増えてきており、民間では、企業の寄付やボランティアの参加な
ど多様な主体が参画しており、地域福祉の進展として評価できるのではないかと。
- ・地域での居場所やこども食堂などの活動の基盤である場所や財源の確保が厳しく、また、
地域福祉コーディネーターなどの雇用の安定性や後継者の問題が生じている。
- ・そういった地域福祉活動の基盤が弱いと、頑張っても途中でしんどくなったり、
活動の中身が当初の目的と違ってきたりする。
- ・地域福祉活動の全体の基盤をどう支えて作ってきているのか、その構造が一番大事な
ひとつだと思う。それも計画の評価の中でみてほしい。活動だけでは見えない全体の仕
組みを側面からチェックすることも必要なのではないかと。
- ・人が流動化しているなか統計的には出せない部分もあると思うので住民の調査は丁寧
にお願いしたい。
- ・孤立している住民の方々への対応として、専門職がしっかりいないといけないと思う。
そのあたり基盤が弱く不安定であると感じており、そこは次の計画に向けて課題にな

と思う。

【議事(4)】

- ・事務局から資料に沿って説明・資料に沿って説明

(主な意見)

- ・世論調査について、6,000 名に送付というと各区 250 名くらいだと思うが、少ないと思う。予算も厳しいと思うが、せっかくやるんだったら最低各区 1,000 名から 1,500 名くらいに聞かないと実情が出ないと思う。
- ・例えば市民活動への関心という調査において、子育て世帯の年齢層と大学生、定年間近の方などの年齢層ごとにどれだけ地域福祉に関心があるかというようなことは捉えるべきという意味で、無作為の中にも作為的な部分はないか。
- ・地域福祉の専門職調査について、CSW は嘱託職員であるなど専門職といえども身分が不安定となっている。資格を持っていたとしても嘱託ということで安定していなければ他の職場に移ってしまい、繰り返し新人が来るようなことになってしまう。
- ・そんな中で専門職の人はどんなことを考えているのか、職場環境についてなど綺麗ごとだけではなく一歩踏み込んだ中身を聞くようにしてほしい。
- ・福祉事務所についても社会福祉士の業務独占の場にすべきであると考えている。生活保護だけでなく生活困窮などあらゆるもの、それこそ「我が事」「丸ごと」、そういうことをしようと思えばそれなりの人を丸ごと抱えないとできないのではないか。